

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観 - 2	都市提携事業	☐ 法定受託事務
所管課	文化観光部 文化課		評価者 文化課長 鋤柄 雅之
一般	会計	款 10 項 05 目 50	
総合計画上の位置付け	分野名	多文化共生社会	施策の方針名 多文化共生社会の推進

1 事業の目的

対象	市民等	意図	行政と市民団体が、国内及び海外の姉妹都市（友好都市）と、芸術、文化、スポーツ、教育、経済等の分野で様々な交流や協力を行うため。
効果	行政レベル、市民レベルともに、国際理解や多文化共生社会への理解を進展させ、地域の国際化を進めることにより、世界に開かれたまちづくりを図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業（事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	都市交流推進委員会の開催、提携都市との交流	都市交流推進委員会の開催、提携都市との交流	都市交流推進委員会の開催、提携都市との交流
予算額（千円）	2,296	896	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	2,296	896	0
当初人員配置数	0.5	0.5	0.0
人件費（千円）	4,269	4,413	0
事業実績	都市交流推進委員会の開催		
決算額（千円）	122		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	122	0	0
人員配置実績数	0.3	0.0	0.0
人件費（千円）	2,485	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	(上段実績、下段経費（千円）)							
活1	指標名	提携都市（姉妹都市・パートナーシティ・協定提携都市）と行政間における交流事業を実施した都市数（国内）	都市	2	⇒	2		
	実績につながる活動	提携都市と行政間での交流を図る。				-		
活2	指標名	提携都市を訪問した市民団体の数（国内）	団体	0	↗	2		
	実績につながる活動	提携都市を訪問することで、交流のきっかけと継続を図るため、都市交流等奨励金を交付する。				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・行政間での交流は維持できた。また、市民団体の提携都市への訪問数は増加している。特に古河市とは、両市の文化施設を会場として、名誉市民である故永井路子氏の功績をたたえ、「生誕100年 永井路子展」を実施することによって、相互理解及び交流を深めることができた。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	異なる国籍や民族の人々がお互いの文化を認め、相互に交流、協力しあえると感じる市民の割合（市民意識調査）	%	67.5	↗	63.7			1 2
成2	国内の提携都市における交流事業実施率（交流した都市数/提携している総都市数）	%	30	↗	57			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・市民意識調査の結果は、概ね前年度並みの結果となったが、古河市との新たな事業として、古河文学館・鎌倉文学館巡回企画展「生誕100年 永井路子展」を実施したことにより、国内提携都市との交流事業実施率が向上する結果となった。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	市民意識調査において、全体の約3分の2の市民が「異なる国籍や民族の人々がお互いの文化を認め、相互に交流、協力しあえると感じる」と回答しており、国内の提携都市との交流や都市交流等奨励金の交付などの、都市提携事業が一定程度寄与しているものと考え。 （※4ポイントほど数値が下がっているが、設問の表現が変わったことが影響しているものと考え、今後の数値の変化を見極めていく。）

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☒ 十分に出ている	☐ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応	結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果	前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	行政間交流や市民団体の提携都市への訪問数は増加したものの、市民意識調査の結果は概ね前年度並みであった。姉妹都市・友好都市交流は自治体間における公式な交流を基本としているが、交流の継続と発展には、市民や市民団体による民間レベルでの交流が不可欠である。今後も市民団体等が特定分野で交流することを支援するパートナーシティ制度を活用しながら都市交流事業を推進していく。		上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		自治体ごとに提携を結ぶ都市や交流内容などが異なることから、共通基準による定量比較に馴染まないためベンチマークは設定しない。							